

第5回 菊川市子ども・わかもの参画協議会議事録（報告書）

日時：10月19日（木）18:00～19:30

場所：プラザきくる3階301会議室

参加委員：14名（望月基希、小杉晋也、渥美嘉樹、勝又健介、菅野真紀、山下千鶴、カトウズプール紗奈、戸塚俊作、平野丈、増田晴夏、磯崎心叶、松下麻衣子、石川公朗、岡田祐三）

事務局：菊川市市民協働センター（笠原活世、鈴木貫司）

アドバイザー：NPO法人わかものまち 土肥潤也

1. 「菊川市子どもわかもの参画宣言」について
 - ・意見募集まとめ
 - ・宣言について地域支援課からの報告
 - ・「菊川市子ども・わかもの参画宣言」最終案の確認
2. 「菊川市子ども・わかもの参画宣言」若者版について
3. 宣言の告知方法についての検討

1. 「菊川市子どもわかもの参画宣言」について

事務局（笠原）

今から「第5回菊川市子どもわかもの参画協議会」を開催させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。今回は最後の協議会になり、参画宣言について最終確認し皆さんで決定します。また、子ども・わかもの参画宣言「若者版」を高校生と大学生が作成しました。若者版について、大人の皆さんからご意見をいただき、参画宣言と一緒に発表できたらと考えています。また、宣言はわかものまちサミットのクロージングで発表するため、その宣言方法についても協議させていただきたいと思ひます。

土肥（アドバイザー）

子ども・わかもの宣言をここまで作ってきまして、パブリックコメントという形で意見募集をしてきましたので、その報告からしていただければなと思ひます。まだ意見募集の結果を受けて、大幅な変更は難しいと思われまますが、若干の変更が可能でその部分も踏まえて聞いていただけたらと思ひます。

笠原（事務局）

9月22日から10月5日の約2週間、意見募集を実施し、168人から回答がありありがとうございました。年代は、ほとんどが10代でほぼ小笠原高校の2年生から意見をいただいております。

・ 教員や様々な職業の方、70代80代の方も一人ずつですが、貴重なご意見を頂いております。また、住まいに関しては、高校生が多いためか、回答者の約40%が菊川市内在住者という結果でした。

・ 「若い人たちの意見も反映されつつあるのはいい傾向だ」「若者の社会参加が進むと思う」など期待する声も多く聞かれましたが、一方で「宣言の内容が具体的には理解できない」という意見も多く寄せられました。

・ 宣言の表記については一般の方からの提案として、「本文がすべて漢字表記の『若者』で統一されているため、タイトルもそれに合わせて『子ども・若者参画宣言』の方が適切だと思います」という意見がありました。ただし、若者の表記については、この協議会で何度も議論し、柔軟な表現を採用する方針として、ひらがな表記としました。そのため、表記は変更しないと回答したいと思ひます。

・ 「『全ての子ども・若者』とは菊川市に住む・通うなど、菊川市に関わる全ての子ども・若者のことです。」を「『全ての子ども・若者』とは菊川市に住む・通う・訪れるなど、菊川市に関わる全ての子ども・若者のことです。」に変更する提案もありましたが、「訪れる」を追記することについて、訪れることも「など」に含まれ

るとの意見があり、そのままの表記にしたいと思います。その二つについては協議会の若者にも確認しました。

若者委員

パブリックコメントについて質問があります。前回の協議会で、「菊川市の住民の意見をより多く取り入れるべきだ」という意見が出されました。その回答として、パブリックコメントを行うことになりましたが、結局、住んでいる地域の60%が市外で、37%が市内という結果になったため、地域外の意見が反映されていないのではないかと思います。小笠高校の2年生が主体で協力している場合は良いのですが、他の学校や地域とあまり関わりのない学校、中学生の声も取り入れるべきだと感じます。どの方法でパブリックコメントを広報したのか、市のLINEなどを使用できなかった理由について教えていただきたいです。

事務局（笠原）

各学校に告知し、意見募集を行うことを実施しました。その結果、小笠高校の生徒たちが積極的に参加しましたが、他の学校の生徒、特に小笠高校以外の学校や中学生からの参加が限られてしまいました。市民協働センターのフェイスブックでの発信や、登録団体にはメールで通知しました。しかし、協働センターだけの発信には限界があるかもしれません。できる限りの周知を行いました。まだ改善の余地があると感じています。

地域支援課（岡田）

パブリックコメントが市で行われなかった理由として、市内の規定が存在し、その規定に合致しなかったことです。また、期間も非常に短い中で実施だったため、市民協働センターに主導してもらうことになりました。宣言の周知に関して、行政として今後の改善策を模索していく予定です。

土肥（アドバイザー）

一般的に、パブリックコメントが行政によって実施されても、多くの場合、意見提出が限られた数となる場合があります。市民の関心が高い場合に限って多くの意見が寄せられることがある一方で、ほとんどの場合、数件しか寄せられないことが一般的です。個人的には、今回のパブリックコメントにおいて、比較的多くの意見が提出されたことは評価すべきだと思います。市民への周知については、まだ改善の余地があると思いますので、今日の議題として告知方法についても議論できれば良いと思います。

岡田（地域支援課）

宣言については、市内での手続きを進めており、前回の協議会で示された案について、市長、副市長、教育長に説明を行いました。第4回の協議会后、10月2日には部長会で内容を確認し、その結果を市長、副市長、教育長に報告しました。本日、昼の政策会議で市長、副市長、部長が合意し、今月末には議会に報告される予定です。もし第5回協議会で異論がなければ、提案として提出される見込みです。

土肥（アドバイザー）

先日、市の質問記者会見の中で、この宣言について触れられ、記事にもなりました。特に記者からもこの件について質問が非常に集中したと聞きました。次に宣言の最終確認に移りたいと思います。

笠原（事務局）

前回、指針と理念の表現が類似していることが話題になりましたが、内部での協議を経て、表現を以下のようにまとめました。市からも承認を得ており、この形で進めていきたいと思っています。

2. 「菊川市こども・わかもの参画宣言」若者版について

土肥（アドバイザー）

個人的な意見ですが、意見募集からの提案すべてを公開すると長くなりがちであり、どこまで公開するかのバランスが重要です。それでは、次第の3番の「菊川市こども・わかもの参画宣言の若者版」について、高校生と大学生が説明していただけますか？

若者委員

若者版は、中高生にもわかりやすく、優しい表現を心がけました。完成した文章は大人版の宣言と一致していますが、皆さんからのご意見をもらえればと思います。

- ・ 若者版の「はじめに」の部分で、大人版では「菊川市では、地域・NPO・学校・企業・行政等が協働しながら～」と記述されている部分を、「大人たち」とひとまとまりにしましたがこの部分で意見をいただきたいです。
- ・ 「こども・若者は、自分から積極的に何かを試みたり、自分の考えを伝え、ちゃんと受け止められたりすることが、地域が好きになったり、友達や周りの人を信頼したり、自分を大事に思ったりすることに役立ちます。」の部分では、文書がわかりやすく読みやすいか、また「～たり～たり」の表現を使うべきかについてのご意見が欲しいです。
- ・ 理念となっているところがこう目的というふうに変えました。理念と目的ではニュアンスが違うのではないかという点と「地域への愛着」という表現で「愛着」という言葉が小学校高学年、中学生がわかりにくいので、「地域への愛情」に変更しましたが、その部分の意味が同じなのかについて意見を貰いたいです。
- ・ 「私たちが行っていくこと」の部分で、「すぐに」という表現が入っており、高校生や大学生との議論の結果、この表現は不要であるという結論に達しました。したがって、この部分の「すぐに」の表現についてもご意見をいただくと幸いです。

一般的なわかりにくい表現や意味が異なる表現があれば、それについてもお知らせいただくと助かります。

土肥（アドバイザー）

各グループで議論し、意見をまとめていただけたら助かります。よろしくお願いします。

グループ協議

[グループA]

「すぐに」の部分は、「すぐに」を入れることで、本来の意味が伝わるという意見がありました。若者版に「まちづくり」という言葉が含まれていないため、文言を変更して加えるべきだとの意見がありました。

[グループB]

- ・ はじめにの部分で、「大人たちが協力しながら」という表現は、本来の意味合いが異なるため、そのまま残すべきだという意見がでました。また、「団体と」の表現でもいいのではという意見もありました。
- ・ 「こども・若者は、自分から活動に取り組むこと、意見を伝えること、そして、その意見が受け止められること」はコンパクトで分かりやすいため、変更の必要はないとの意見がでました。

- ・ 意見表明・反映の部分の「すぐに」という表現について、意見を表明できない理由が明確であるべきだということ意見があり、その部分について考える必要があると思います。

[グループ C]

- ・ 「大人たちが～」の部分は、そのままにしておいてもいいという意見が出ました。学校、企業、行政というのは今までは大人たちが協力しながら、機会をつくってきて、これからは子ども・若者たちが主体的にというところを強調してもいいのではないかと思いました。
- ・ 「意見が受け止められることで～」の前に、原文では、「真摯に」という表現があったが、ちゃんと受け止められるというニュアンスの言葉が入るといい意見が出ました。
- ・ 「権利として認め、守られていくことも大切です。」を「認められ」という表現にして、「認められ、守られていく」というイメージにしていた方がいいという意見が出ました。
- ・ 「子ども基本法の考えに沿って」を「基に」にすることによって、考えに沿っていない意見も含められた方がいいという意見が出ました。
- ・ 「すぐに」の部分については②の「すぐに」は消してしまって、①のこどもの若者の部分は、自分の周りにすぐ意見を表すことのできない子ども・若者がいたら自分の声も一緒に届けられるように頑張ります。というような文章に変えてはどうかという意見が出ました。

[グループ D]

- ・ 「大人たちが協力しながら」というところの「大人たち」はこの表現だと、大人が主体となって動いてるっていうイメージが強いのではないかという意見があり、「大人たちが協力しながら～」という部分を「大人たちと子どもが協力しながら～」や噛み砕いて「みんなが」という表現でもいいと思います。
- ・ 「地域の人たちと一緒に」という部分を少し柔らかい言葉で、「子どもと一緒に～」というように、子どもという言葉を入れたほうがいいのではという意見が出ました。
- ・ 次に「地域への愛情」の愛情という表現ですが、もともとは愛着という言葉で、愛着と愛情は、別の意味が含まれるので、子ども・若者版も「愛着」のままのほうがいいんじゃないかという意見が出ました。
- ・ 最後指針の③の協働のところ、最後の③の協働だけ、大人向けにも作った指針と全く同じ文章になってしまっていて、まだ少し硬く理解しにくいという点があったので、しっかりと噛み砕いて、子ども・若者が理解しやすくなるような表現に変えた方がいいという意見が出ました。

土肥（アドバイザー）

子ども・若者は、今の社会を一緒に作っていくパートナーであり、各文章ごとに「みんなが～を目指します。」というフレーズが繰り返されています。この部分は統一して文章を切り分けるべきだと考えます。

注釈が多く入っていますが、小学生には注釈があまり必要ないかもしれません。文章は簡潔で読みやすくすべきで、デザインも修正できる点があると思います。

"理念"と"目的"は異なる意味を持つので、"理念"を"目指すところ"などに言い換えることを検討すべきです。

参考に類義語辞典を活用してください。

実際の小学校高学年の生徒にフィードバックを求め、修正を加える際に彼らの意見を取り入れることが重要だと思います。大人向けの版を修正する際に、生徒たちにも協力して修正を進め、最終的な完成版を作成しましょう。

笠原（事務局）

若者版は、15日を目安に仕上げただけだとありがたいです。

鈴木（事務局）

QRコードを読み込む場合は、ウェブ上で編集できるので、調整は可能だと考えています。

土肥（アドバイザー）

"協働"という言葉は特に小学生には馴染みがないかもしれません。そのため、この言葉は不要かもしれません。また、中学生も理解しない可能性があるでしょう。リーフレットにはQRコードではなく、文章で情報を提供すべきです。

勝俣（委員）

"協働"は小学生にとって一般的な言葉ではありません。また、QRコードを読み込んで宣言を読む子供は少ないでしょう。リーフレットはA3サイズで2つ折りにし、小さな収穫祭や他のプロジェクトに関する情報を掲載し、裏に宣言とセンターの連絡先などを含める予定です。

土肥（アドバイザー）

大人向けとこども・若者向けの2つのバージョンを作成できるか、予算的な制約もあるかもしれませんが、文言の変更は可能だと考えています。デザイナーに相談しましょう。

土肥（アドバイザー）

若者向けのバージョンは、さらに分かりやすくすべきです。例えば、"参加・参画"や"意見表明"を"意見を伝えること"と表現し、大人向けとの違いを強調しましょう。また、子供向けの文書はルビを活用すると助かるでしょう。

"今の社会を一緒に作っていく"の"つくっていく"は"作る"の代わりにひらがなで表記する方が適切です。

勝俣（委員）

"すぐに意見を表すことのできないこども・若者"についての状況がよく理解できないので、より分かりやすい表現が必要です。多くのこどもや若者は、まちづくりや自分の意見について考えたことがないか、表現できないかもしれません。どのように意見を表現すべきかわからないと感じるこどもや若者もいるでしょう。背景が複雑で深刻な場合もあるため、一括して"意見を表すこども・若者"と言うことは難しいです。

土肥（アドバイザー）

表現方法について難しいところがありますが、提案できることを考えてみます。意見を持たない状況にいるこどもや若者もいます。家庭や育ちの環境によって、意見を表現する機会がないこどもや若者もいるでしょう。そのような人々に焦点を当てて、適切な表現を検討しましょう。

鈴木（事務局）：

大人と若者の協力のもと、宣言を作成していく形で進めてもよろしいでしょうか？

土肥（アドバイザー）

小学生をアドバイザーに迎えるのも良いアイデアです。実際には大きなプロジェクトになりましたが、若者委員と事務局が協力して取り組んでいくのが良いでしょう。

3. 宣言の告知方法についての検討

笠原（事務局）：

宣言の告知方法について、前回は議論しました。実施済みの部分は着実に進んでいます。宣言の前段階では、市民に向けて宣伝を行う計画が進んでいます。リーフレットに関して、分かりやすく伝えるために様々な方法を検討中です。皆さんも意見があれば、ぜひお知らせください。

岡田（地域支援課）：

11月19日に宣言を行う予定で、その宣言をしっかりと周知したい考えです。宣言が発表された後、宣言内容を市のウェブサイトや広報誌で特集記事として取り上げ、市民に周知したいと考えています。多様な主体が協力する中で、市の立場として、地域組織や協議会など地域の組織にも理解を得たいと思っています。また、市からお願いを受けている民生員なども含め、皆さんに宣言の意義を説明し、協力をお願いしたい考えです。今年度を通じて、随時告知を行いたいと思っています。

笠原（事務局）：

サミットのクローズセッションで宣言を行う予定で、時間は16時～17時、場所は常葉菊川高校の講堂です。20分の枠内で進行します。内容について、協議会の発足経緯や活動について説明し、協議会委員の紹介とコメント、宣言文の朗読、市長からのコメントの順に進行する予定です。宣言に関して、前文と理念は市長が、指針1は市長と協議会委員、指針2-1は協議会の若者委員、指針2-2は市長と協議会の大人委員、指針3は市長と協議会委員が担当します。宣言は市長が行い、指針は協働で取り組むため協議会委員が唱和する形式を採ります。若者委員からもコメントがあります。

土肥（アドバイザー）

告知方法について意見を募る予定です。どんな方法が提案されるか、グループ内で話し合しましょう。

グループ協議

勝俣（委員）

生徒会や児童会を活用し、告知を行うアイデアがあります。放送委員会や生徒会のメンバーを活かして、告知を行うことができるでしょう。各中学校から生徒会長全員を招いて、宣言について説明し、生徒会を通じて周知することができるでしょう。

土肥（アドバイザー）

また、中学校の生徒会や小学校の児童会に、協働センターと協議会の委員が訪れ、宣言について説明し、各生徒会からも周知するアイデアがあります。教育長や教育委員会の協力も取り入れる予定です。

岡田（地域支援課）

教育関連の情報がまだ広まっていないことを考慮して、教育機関に訪問して宣言について説明し、支援をお願いするアプローチを検討中です。また、フェイスブックなどで外国籍の住民に向けて情報を発信する予定で、ポルトガル語や英語の翻訳が必要な場合、外国人相談窓口が対応します。

土肥（アドバイザー）

クラウドファンディングなどを活用して、駅の広告スペースを一時的に利用し、宣伝を行うアイデアが挙がっています。宣言の制作プロセスや過程をまとめた冊子を作成し、他の自治体にも学びの機会を提供したいとの考えがあります。最後に、皆さんへのお願いがあります。

笠原（事務局）

5回の協議会が終了しましたが、皆さんのご協力と若者から多くの意見がもらえたことが大変良かったと思います。今後も宣言の告知や広めていく活動を続けていく予定です。皆さん、本当にありがとうございました。

土肥（アドバイザー）

5回の会議を通じて、多くの葛藤と協力がありましたが、この過程をまとめた冊子を作成するアイデアがあります。他の自治体にも学びの機会を提供できればと考えています。再度、皆さんに感謝の意を表します。

【協議会様子】

